

# 九頭竜川

九頭竜川は流域面積が県面積の約70%を占める大河川です。美しい景観と豊かな生態系に恵まれた九頭竜川。このふんだんな水の流れが、潤いのある暮らしや多彩な文化を育み、産業を活性化させてきました。しかし、古来より悲惨な洪水の歴史を繰り返してきたことを忘れてはなりません。恵みの水を上手に治めて、上手に利用する。それが私たちのめざす姿です。

## 背景

① 台風×梅雨前線の集中豪雨による水害。

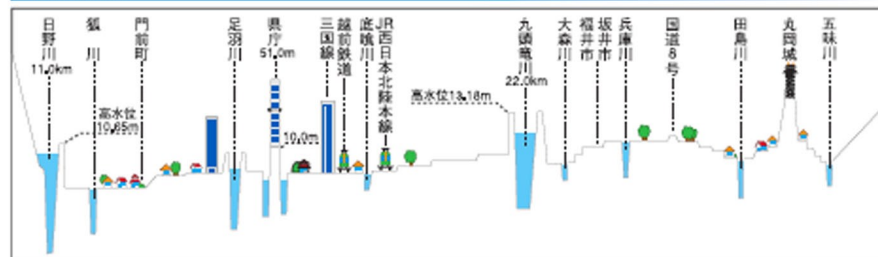


▲福岡市での洪水(昭和14年) ▲九頭竜川に架かる高田橋の橋脚が倒壊(昭和25年)

## 対策

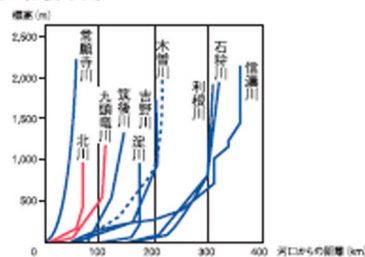
① 河川改修とダムによる洪水調節により、安全な暮らしに貢献します。

## 河川横断面



## 河川勾配比較

九頭竜川と北川はともに、内外の代表的な河川と比べても短く急な川で、大雨が降ると短時間のうちに急激に増水するので、河川改修やダム建設を行う必要があります。



## 洪水被害の記録

1953年 9月23日～26日	台風13号
1959年 9月13日～14日	台風15号(伊勢湾台風)
1961年 9月15日～16日	第2室戸台風
1965年 9月9日～18日	台風23号、前線、台風24号
1981年 7月2日～3日	梅雨前線、雷雨
2004年 7月17日～18日	梅雨前線(福井豪雨)

## 九頭竜川水系 水利使用の現状

九頭竜川水系は、最上流の九頭竜ダムをはじめとするダム群、それらの下流には多数の水力発電所があり、水資源開発が進んでいます。

中、下流部においては、九頭竜川下流(農林水産省)をはじめ、多くの農業水利権が許可されており、穀倉地帯で知られる福井平野を潤しています。その他にも水道用水や工業用水、雑用水(消雪用水・公園用水等)として水利権が許可されています。

## 【九頭竜川の名の由来】

九頭竜川の名の由来には、いろいろな説があります。一つは寛平元年(899年)6月、平泉寺の白山権現が突如の雷に示現され、その尊像を川に浮かべたところ、九頭の竜が現れ、尊像を捧げたいと流れて下って黒竜大明神社の対岸に着きました。それ以降、この川を九頭竜川と名付けられました(『竜前名鑑考』)。

二つ目は、承平の頃(911年頃)国土を護るために河の西側、すなわち東は常陸の鹿島、西は安芸の厳島、南は紀伊の熊野、そして北は越前の眉山の黒竜大明神に四神が置かれました。この黒竜大明神の祭

神は水体、黒竜王であり、その首を流れる川を「黒竜川」とよばれました(『國主記』)。三つ目は、近衛忠房に記された「大業院寺社雑事記」(1480年)の絵巻に「黒川」という名が見られ、「太平記」には黒竜明神を「クズレ明神」と記されています。このようなことから、時を経て九頭竜川と名付けられたのです。【船橋黒龍神社】 【毛谷黒龍神社】



## 九頭竜川流域委員会 ～九頭竜川水系の河川整備計画の策定に向けて～

平成14年5月9日に第1回「九頭竜川流域委員会」が開催され、九頭竜川、日野川、足羽川などの河川整備計画策定に向けて治水・環境・利水についてそれぞれの「現状と課題」や「整備目標」等の議論が行われています。

## 「九頭竜川流域委員会」について

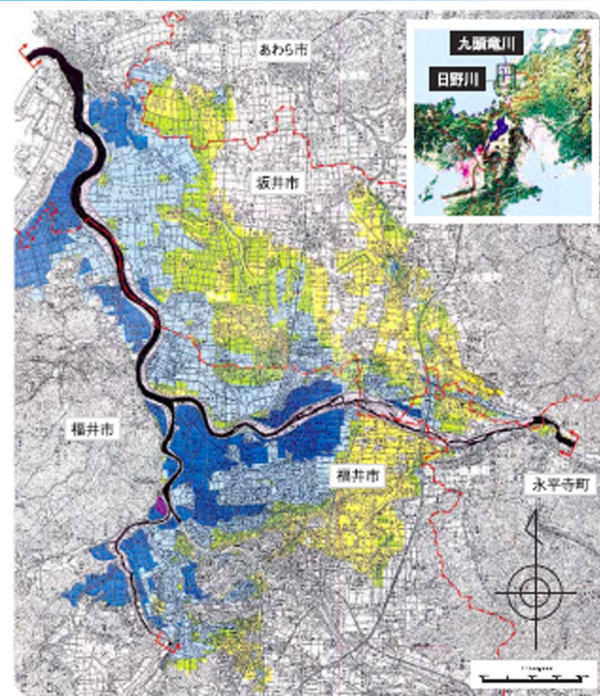
- ・平成9年の河川法改正に伴い河川管理者は「河川整備基本方針」「河川整備計画」を策定することとなりました。
- ・近畿地方整備局では学識経験者から意見を頂いて、20年～30年間の具体的な河川整備の内容を示す河川整備計画を策定するため、各水系において「流域委員会」を順次設置しております。
- ・九頭竜川水系では、「近畿地方整備局長」と「福井県知事」共同で「流域委員会」を設置し、九頭竜川水系の河川整備計画策定に向け、その審議や関係住民の意見の聴取方法について意見等を頂くものです。



▲流域委員会開催風景

## 九頭竜川水系浸水想定区域図

150年に1度の規模の出水で、九頭竜川・日野川が氾濫した場合に想定される、浸水の状況をシミュレーションにより作成したものです。



## 凡例

浸水した場合に想定される水深(ランク別)

- 0.5m未満の区域
- 0.5～1.0m未満の区域
- 1.0～2.0m未満の区域
- 2.0～5.0m未満の区域
- 5.0m以上の区域
- 行政界
- 浸水想定区域図の指定の対象となる洪水予報河川

## ドラゴンプロジェクト

九頭竜川の自然と心の豊かなふれあいをしたい——そんな願いのもと、自然と人が共存する望ましい水系環境を実現する基本プランとして示されたのが、「ドラゴンプロジェクト」の9つの提言です。

## 「ドラゴン9つのお願い」

- 〈自然風土〉
  1. 流域の自然と共存を
  2. 水環境の適正化を
  3. より安全な地域づくり
- 〈社会経済〉
  4. 流域のバランスのとれた安定を
  5. 流域特性の活性化を
  6. 気候風土の新たな活用を
- 〈精神文化〉
  7. ローカルアイデンティティの高揚を
  8. 流域の歴史的遺産と文化の継承を
  9. 流域を越えた情報発信を



【中角橋】